

アート、みつけよう！福岡のアート情報誌 [wa]

VOL.64  
2014  
WINTER



LIFE IS ART

流山児祥

ART EVENT CLIPS

1~3月のアートイベント情報



COVER ARTIST  
富永ボンド Bond Tominaga

PROFILE////////////////////  
1983年福岡県生まれ。「人と人、心と心をつなぐ(接着する)」をテーマに、市販の木工用ボンドで絵を描く。ライブパフォーマンスを活動の軸とし、数々のイベントや商業施設などで作品を制作。福祉施設などでアートセラピーのワークショップを行うなど、幅広い分野でアートの可能性を追求している。2014年ニューヨークにも進出。

Q ボンドで絵を描き始めたきっかけは？

以前はグラフィックデザイナーで、「BOND GRAPHICS」として活動していました。ミュージシャンやアーティストと接するうちに私も絵を描き始めたのですが、意外性があり、自分の得意なコラージュの手法を活かせる画材を、と調べてひらめきました。

Q 制作する上でのこだわりは？

私が描くのは、人体のパーツも含めて「人」だけです。そして必ずライブで、絵を描くプロセスを見せながら描きます。絵を描く楽しさや創ることの臨場感を感じてほしいし、誰でも自由に表現していいんだということが伝わるきっかけになればいいと思うので。

Q アーティストでよかったと思う瞬間は？

私は作品と共に言葉でもメッセージを発信しているのですが、観てくれた方が共感してくれた時にとても嬉しいです。それから、私との出会いを通じて誰かが絵を描き始めた時。

Q これからどんな活動をしていきたい？

誰もが持っているアートの才能を引き出せるように、ワークショップを増やしたいです。特に精神障がい者や高齢者の方々が豊かに暮らせるよう、福祉分野でアートの力による支援をしたいですね。



左/年間 60 回以上のライブペインティングを披露する。

右/グッズの中でも人気のあるスマホカバー。

BOND GRAPHICS

<http://www.bondgraphics.com/>

最新のイベント情報、グッズのオンラインストアはこちらから。



VOL.64 WINTER  
CONTENTS

02 COVER ARTIST  
富永ボンド

03 LIFE IS ART  
流山児祥

04 Inspiring Talk  
日韓で共に創ること、を語ろう  
チョン・ヨンドウ × 振子びじん

季刊 福釜藝術放談 (10)  
異文化を逆手にとって

08 愛でたし伝統文化  
第二回 筑前博多独楽

09 ART TRIP in KYUSHU  
北九州

PICK UP MOVIE  
「おみおくりの作法」

10 +ART  
「未成年の恋する女性」  
包行想(アトリエブラヴォ)

11 セリフからはじめる演劇の話  
「このままやったら、フェリチータの  
コーヒーも飲めんくなるよ。」  
幸田真洋

12 ART EVENT CLIPS

<コラム> 福岡ギャラリーさんぽ  
アートスペース貌

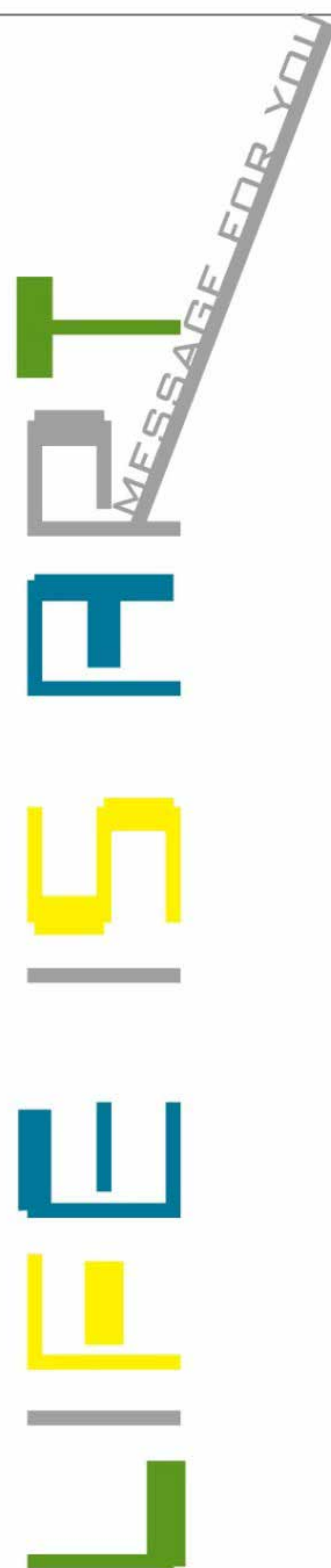
<コラム> おしゃべりな学芸員  
福岡市博物館

読者プレゼント

14 FFAC INFORMATION

PICK UP GOODS  
ミュージアムグッズセール開催!

## 福岡をアジア舞台芸術の玄関に



地球温暖化、環境破壊、人類が経済一辺倒の究極の奈落へ向かって突っ走っている時代、悪夢の進歩でなく循環の思想への転換こそ問われている。ヒトとヒトが交流・循環する思想、想像力という根拠こそが舞台芸術の根本である。戦前のような《既視感》さえ漂う「現在」。こんな時代だからこそ、演劇人に《他者》と協働し共闘する想像力と創造力をもった意志が問われている。

私が中学2年15歳の1962



演出家・俳優  
流山児祥

年、SL急行有明に乗って三池炭鉱のある街：荒尾から27時間かけて東京へ出て54年の時が過ぎた。1960年代後半、私は唐十郎、佐藤信、鈴木忠志、寺山修司という現代演劇の巨人たちと出会った。演劇は何処でも出来る、何をやってもいい！という「演劇の自由さ」を4人の師から教わった。1970年アングラ劇団「演劇団」を旗揚げし、日本列島を疾走した。寺山修司夭折の1984年に小劇場演劇運動の「横断的結合と新た

な出会い」を目指し、演劇企画集団「流山児★事務所」設立。あれから30年、200を超える作品群を国内外で上演し、精力的に演劇の最前線を疾走し続けている。あつという間の時の流れである。文学座が演劇のデパートなら、私たちは世界を駆ける「民衆のための演劇のスーパーマーケット」である。3・11大震災・フクイチ原発事故以降、被災地演劇人との交流も続けている。来年には福島に小劇場を作り、共同制作する企画も実現する。カネはなくともココロザシはある。

福岡では『幕末2001』『お岩幽霊』を上演し、毎夏、日本演出者協会主催の演劇大学でお世話になっている。福岡はアジアの玄関口、ぜひ、アジアの舞台芸術共同制作や技能、文化的活動を共有し発展させ、東京と違って、優しいヒトとヒトの心で繋がる人的ネットワークの更なる根拠地としての展開を期待している。私のライフワークでもあるアジアの演劇交流・異文化交流の為に、これからも頻りに福岡に行きます。因みに、来春2〜3月ソウル・台北を廻る「義賊☆鼠小僧次郎吉」の福岡の公演場所を探しています。寺、神社、何処でもいいです。連絡待っています。みなさん楽しいことやりますよ。

りゅうざんじしょう ●日本演出者協会副理事長。状況劇場、早稲田小劇場を経て流山児★事務所設立、第二次小劇場世代のリーダーとして疾走中。代表作に「ハイライフ」「ユーリタウン」「オールドパンチ」などがある。映画「ミンボーの女」声優「るろうに剣心」「宇宙兄弟」など。

流山児★事務所  
<http://www.ryuzanji.com/>

撮影：横田敦史

### NEXT STAGE

「義賊☆鼠小僧次郎吉」  
2月25日(水)～28日(土)  
芸術空間SM / ソウル  
3月6日(金)～8日(日)  
実験劇場 / 台湾



# Inspiring Talk



日韓で共に創ること、を語ろう

## チョン・ヨンドウ

演劇を学んだのち舞踊を学び、振付家・ダンサーとして韓国を拠点に世界各地で活躍する。'04年「横浜ダンスコレクション」にて、横浜文化財団大賞ならびに駐日フランス大使館特別賞を受賞、フランス国立トゥール振付センターにて研修する。'08年「アジア・コンテンポラリーダンス・ナウ!」、'13年・'14年「韓国-日本 共同制作プログラム」など福岡での事業への参加も多数。'13年国際交流基金主催「日・中・韓 国際共同制作作品演劇『祝/言』」に出演。Doo Dance Theater主宰。



福岡市文化芸術振興財団とNPO法人JCDNが2012年度～13年度に実施した国際ダンス・イン・レジデンス・エクスチェンジ・プロジェクト『韓国-日本 共同制作プログラム(※1)』が、2014年度より、韓国・釜山の文化団体との共同で行う、リサーチベースのアートプロジェクト『Plan Co(※2)』として新たな広がりを見せています。今回は、プロジェクトのレジデンスアーティストとして共同制作を行った、チョン・ヨンドウ氏と振子(ねじ)ぴじん氏の2人に、プロジェクトに参加しての感想や国際共同制作を行うことの意義・展望について語っていただきました。



## 振子ぴじん

1980年秋田県生まれ。2000年～04年まで大駱駝艦に所属し、磨赤児に師事。自身の体に対する微視的なアプローチをしたソロダンスや、体を物質的に扱った振付作品を発表する。主な作品にアーティストのアルバイト生活を素材にした『モチベーション代行』など。2011年、横浜ダンスコレクションEX審査員賞、フェスティバルトーキョーF/Tアワード受賞。ASA-CHANG&巡礼、faifai等の作品にも出演する。

振付家・ダンサー / 韓国

チョン・ヨンドウ



舞踏家 / 日本

ねじ  
振子ぴじん

※1 「韓国-日本 共同制作プログラム」 / 詳細はP7参照。

※2 「Plan Co(プランコ)」プロジェクト / 若い芸術家たちの国境を越えたコラボレーションを通じて、日本と韓国、広くは東アジアの相互理解を深め、共存の未来を構想するために、福岡市文化芸術振興財団、NPO法人JCDN、LIG文化財団(韓国)、釜山文化財団(韓国)が立ち上げたプロジェクト。「Co」は共に考え、共に創るなど「共に」を表す言葉。

## 釜山独特の身体性

▼チヨン(以下、チ) 振子さんは、今年の Plan Co プロジェクトのために、釜山と福岡の両方で現地の人にインタビューをしてまわるなどのリサーチをしたと聞きました。両都市の似ているところと違うところはどんなところでしたか。

▼振子(以下、振) 違う場所がそこにはあって、違う人たちがそこにいる、という感じでした。その中で、「昔から行き来があったのだな」と感じることもできる、互いに影響を受け合った部分も見つけることができました。

釜山でクリエイションしてみても感じたことは、人と人との距離感が近いことです。それは、釜山というより韓国の国民性がそうなのかなと思ったのですが、ソウルに行ったらソウルはまた全然違って、「釜山は独特の身体性を持っているんだな」ということに気づきました。このような独特の身体性については、自分が東京にいる時には気づかなかった部分です。実際釜山に行ってみて、ある程度人との距離を置くことを自分の身体が必要としていることに気づきました。文化的な影響で、日本人は無意識にそういう距離感を欲しているのだと思います。もちろん、一概には言えませんが。

▼チ 私も時々、韓国で距離感が近すぎて疲れてしまうことはあります。日本に来ると距離があつて楽に感じるのですが、逆に相手との距離を感じすぎて悩むこともあつて…。

▼振 分かります。僕たちほんと、繊細なアーティストですよ(笑)

▼チ とはいえ、お互いに仕事をする時はそんな気持ちは見せずに仕事をしますよね。違う国で、文化や言葉の違う人々と一緒に作品を創るということは、本当に大変なことだと思えます。通訳がいたとしても自分の考えをはっきり伝えられず、相手の考えも明確に理解できないまま、作品創作に向けて進まなければならぬ。この作業を短期間で行うのは本当に難しいことだと思えます。

## 「福岡ー釜山」地方都市どうしの共同制作

▼チ 釜山での創作を通して、自分の作品や感性に影響した部分は何なところですか。

▼振 まず、「日韓」という言葉から喚起されるイメージは沢山あるけれど、当然そのイメージは人によってディテールがあるのだというところに気づきました。このプロジェクトのような「異なる地域どうしで共同制作する意味」を考え

るとしたら、作品制作を通して「日韓」という言葉のイメージにどれだけ違うディテールを持たせることができるか、ということが重要だと思えます。共同作業をする上で、「日韓」についてくるありきたりなイメージに手を伸ばさないためには、私たちが経験し、知っている、“一般的なイメージからこぼれる細部の部分”をアウトプットしていくことだと思うのです。

リサーチを始めてからは、「福岡も釜山も全然違う場所、全然違う人、全然違う文化がそれぞれにある」ということが、どんどん自分の中で明らかになっていき、この「違い」みたいなものをなかったことにして、いきなり「僕たち同じアジアだから仲良くしよう!」というテーマに進んでしまうと、何か狂うのではないかと思ひ始めました。「日韓で仲良く」という言葉の大雑把さに騙されちゃいけない。それによって、見えなくなるものの多さの方が大きいのです。そこに気づいたことが、一番大きかったですね。

▼チ 「福岡ー釜山」の関係は、「今、日韓関係はこうだ」という大きなイメージだけでは把握できないくらい、利害関係を含めた沢山の関係があると思います。「福岡ー東京」「釜山ーソウル」より、「福

岡ー釜山」の方がよっぽど距離が近いんです。国は違えども、近いからこぞできるディテールがそこにはあると思えます。福岡と釜山のような地方都市どうしが出会い、何かを経験するということは、政治的なことや経済的なことは関係なく、お互いが普段見せない部分や、互いに見せたくない部分を見せていくことが大事だと感じます。

▼振 Plan Co プロジェクトについては、「日韓」ではなく、あくまで「福岡ー釜山」という地域の関わりであることにこだわらざるべきだと考え、念頭に置きました。ただ、リサーチしたのは釜山と福岡という場所だし、ダンサーも釜山出身、福岡出身であったのは確かですが、釜山と福岡の地域性が自分の作品に表れていたかという点、それは自分では分かりません。

ヨンドウさんは、福岡でのリサーチや制作を通して、このプロジェクトが国家間のやりとりでなく地域間のやりとりであることの意味や気づきがありましたか。

▼チ 福岡でリサーチをしてみても気づいたのは、実は福岡と釜山間を行き来して商売をされている方やその周りの方々が、「日韓関係をより良くさせよう」と心から思っているということ。つまり、政治家が「仲良くなりましょう」と言うのではなく、それよりも個人レ

## プロジェクトの今後

ベルで、お互いに直接的に通じるものを持つことのほうが重要であると改めて感じたのです。ですので、作品制作をしながら、「大義名分としての日韓交流はとりあえず置いておいて、いま目の前にいる人たちと関係を築くことが大事なのだ」と思いました。結局は、そのような直接的、個人レベルの関係性が、国どうしで何か大きなことが起こった時に、その問題や民族性を乗り越える力になると信じています。

▼振 僕が釜山で創った作品について言うと、作品に入れたジョークや、面白みの細部というのは、釜山ならではの要素で、たぶん福岡でそのまま上演しても観客には伝わらないだろうと思います。他の地域では伝わらないという意味では、釜山でやったという意味があつたし、地域性があるなとは思っています。ただ、福岡に関する要素をあまり取り入れられなかったことは反省としてあります。

▼チ それは僕自身にもあります。僕は福岡で上演したから、釜山の要素はあまり取り入れられなかったと思っと思っています。

▼振 上演場所が決まっていると、どうしてもそうなると思います。もともとが釜山と福岡の両方で上演する作品という条件であつたら、もっと違う作品になっていたかもしれません。

▼チ 個人的な望みですが、このプロジェクトがずっと続いてほしいと思います。運営するために必要な助成や支援が続かなくなつたとしても、アーティストどうしの関わりは続いてほしいです。地域を理解して作品をつくることと、自分の意思だけで作品をつくることは違うというのが、このプロジェクトの特性だと思います。今後どんなアーティストが関わるか分かりませんが、応援していきたいと思っています。このプロジェクトが積み重なって本(記録)として残つたら良いなと思うし、その記録の存在が、将来若い世代が制作に迷つた時のヒントになり、次の世代に引き継がれていくものになれば良いと思います。

▼振 そうですね。本で残すというアイデアはいいな。舞台作品という形にこだわらなければ、いくらでもやりとりはできるだろうし、人と人との交流は何かしら続いていくと思います。

▼チ これからは日韓だけでなく、全世界的に交流は多くなつてくると思います。文化と人が、どんどん混ざっていくことになるでしょう。そうになると、自国にどんな文化が流入するのかという不安や、自国の文化と他国の文化の両方をどうやって受け入れるか、拒否するの

かという悩みも生まれるはずですよ。アメリカやヨーロッパの経済や文化が流入してくる中で、これからは中国や韓国等のアジアも存在感を増してくると思います。

▼振 近い将来、日本でも労働力の自由化が進んで、外国人が今以上に日本で働くようになると思います。今までは、たまたま日本は海に囲まれていたから移住者が少なかっただけで、これからはもっと外国籍の人が来るようになると思います。けれど、今の日本人はその状況を迎える準備ができていないんじゃないかと、心配になることがあります。案外大丈夫なのかもしれないけれど(笑)

いろんな人たちと混じり合つて空間を共有することになるとしたら、その時は当然、諍いや摩擦は起きるだろうと思います。そんな時は、提供されたイメージにすぐ飛びつくんじゃないで、もっと自分の想像力を働かせて、そういうイメージを排して人と人で直接やりとりし、確認していくことが大事だと思います。

私たちがダンサーたちとしていたことは、まさにそういうことです。みんながみんな、そういうふうには

ならないけど、自分がこのような共同制作をすることで、そういう意識に少しでも持って行けるような作品を投げられたらいいなと思いますね。

▼チ 私はこのプロジェクトを通して、共同制作やコラボレーションについての捉え方が変わりました。滞在制作をしてただ通り過ぎる人になるのではなく、その土地に木を植えていくような作業が必要だと感じます。その地根つことなり作品制作を続けていくようなアーティストの存在が必要で、大事なことです。私ができることは、今後も福岡の芸術家と若い世代の人たちと交流し、共に制作し、分かり合っていくこと。韓国と日本の違う点、釜山と福岡の違う点、あるいは、いち人間と人間の違う点とは何なのか、このような問いを一生続けていきたいと思っています。



## 「韓国-日本 共同制作プログラム」のこれまで

2014年度



**Plan Co #1**  
「소리, 소문도 없이 -소리솨뉨드프시-」  
2014年6月20日(金)~22日(日)  
LIGアートホール釜山、  
沙山インディーステーション



(C)LIG Arts Foundation  
(photo by Sanghyub KIM)

福岡・釜山のローカルなパートナーシップによる共同リサーチプロジェクト“Plan Co”の第1弾が、振子びじん氏を中心に展開された。「噂」をプロジェクトのキーワードとして掲げ、創作にあたっては、両地域の日常に漂っている噂についてのリサーチが行われた。それをもとに両国の様々なバックグラウンドを持った芸術家たちが作品を創作し、舞台・展示・フォーラムのかたちで釜山にて発表した。

2013年度



**Plan Co zero**  
「카라스와 카사사기」  
2014年3月8日(土)~15日(土)  
ぼんプラザホール、  
福岡市赤煉瓦文化館



photo by Road Izumiyama

チョン・ヨンドウ氏が福岡に約1ヶ月滞在し、ジャンルを超えた日韓のアーティストとコラボレーションするプロジェクトの第2弾。「カラスとカササギ 一似て非なるものは、どのように共に未来を創っていくのか」をキーワードに、ダンス公演のほかトークや展示、朗読パフォーマンスなども開催。様々なアプローチで日韓の今とこれからを考える8日間となった。

公式サイト <http://jk2014.jcdn.org/>

2012年度



「baram 033° 37'22"N 130° 25'31"E」  
2013年3月23日(土)・24日(日)  
九州大学 箱崎キャンパス



photo by  
Road  
Izumiyama

チョン・ヨンドウ氏を福岡に招き約1ヶ月にわたるアーティスト・イン・レジデンスを実施。韓国と福岡を行き来しながら感じたことをベースに作品を制作。ダンス・演劇・美術・音楽・映像・テキストなどジャンルごとに、日韓のアーティストがコラボレートし、歴史的な建築の残る九州大学・箱崎キャンパス内の数ヶ所を会場にツアー形式で作品を上演した。

公式サイト <http://jk2013.jcdn.org/>

季刊

# FUKU-BU GEIJUTSU HOUDAN

福 釜 藝 術 放 談

## 10' 異文化を逆手にとって

6月にPlan Coの釜山公演「소리, 소문도 없이(音、噂もなく)」を拝見した。プロジェクトの経緯などは、チョン・ヨンドウさんと振子(ねじ)びじんさんの対談記事に譲る。個人的に印象に残ったことを述べたい。

公演冒頭、振子さんと、韓国側の出演者が言い合いをする。お互いの母語の「似て非なる」単語を出して、こちらの単語こそが「正しい」のだ、と主張しあうのだ。例えば、キムチと「김치」、「とんかつ」と「돈까스」。これをリズムカルに発声し、あって何度も繰り返す。その流れの中で、今度は「竹島」と「独島(독도)」という単語が出てくる。観客は政治的な文脈でその単語が発せられるときと違って、冷静にその応酬を受け止めていたように思う。やがて日本側の振子さんと韓国側の出演者が攻守交代するように相手側の単語を発し始めたときには笑いすら漏れた。

このようなやりとりが可能なのは、これが芸術作品だからだ。芸術の場ではなく、現実のやりとりだったならば、その場の空気はもっと緊張したに違いない。こうした現実を包み込むような柔構造こそが、芸術が国際交流において発揮できる強みの一つだ。

今春から秋にかけて、Plan Co以外にも、日韓の戯曲交換プロジェクトや、劇団グレコロマンスタイルの福岡・釜山

両都市での公演「WATAGATA 福岡釜山アートネットワークの福岡アジア美術トリエンナーレへの参加」など福岡-釜山関連の芸術行事は目白押しだった。そこで再確認したのは、アーティストたちの戸惑いや葛藤である。チョンさんたちの対談にも出てくるが、特に舞台公演の場合、作品を福岡の観客、釜山の観客、あるいは双方の観客に想定する一方で、題材が同じでも見せ方に多様な選択肢が生じ、迷うのは当然だ。

振子さんの日韓類語の応酬や、日本語も韓国語も使わずにインチキ外国語を役者に使わせたり(戯曲交換プロジェクトでの福岡のアートパフォーマンスグループM.M.S.T.)、劇中人物に「通訳役」を登場させて字幕無し公演を実現させたり(グレコロマンスタイル)……と一連の日韓プロジェクトの作品群には、字幕付き上演の是非も含めて関係者が悩んだ末に、異文化の観客に見せることの困難を逆手に取った演出が目立った。いずれも捨て身の一手だったのかもしれないが、この経験は今後に生かされるだろう。



内門 博

西日本新聞記者。近年はホン・サンス監督の映画に夢中。著書に「校歌をうたえば」(書肆侃侃房)。

# 愛<sup>め</sup>でたし 伝統文化

## 第二回 筑前博多独楽

過去から未来へ。伝統のバトンがつながる現場でその魅力をうかがいます。  
今回は、福岡の古典芸能「筑前博多独楽」のおふたりです。



若手

四代目  
筑紫寿楽さん(10)

生まれながらに“回るものが大好き”で身近にあった独楽と親しむ。9歳で舞台デビュー、「寿楽」を襲名。小学校に通う傍ら稽古を続ける。



ベテラン

三代目  
筑紫珠楽さん(39)

博多独楽宗家の長男として生まれ、10歳で入門。独楽芸の舞台に立つ傍ら博多独楽の地方である和太鼓でも海外公演を行うなど勢力的に活動する。

### 【筑前博多独楽の基礎知識】

歴史は約500年と古く、日本で木台に鉄芯を使った独楽ならびに独楽芸の発祥とされる。博多独楽の一座が京都、大阪、江戸へ上がって興行したことで、日本各地に独楽芸が伝わる。一時途絶えていたが現在唯一の家元「博多独楽宗家」の初代により復興され、昭和33年に福岡県無形文化財第一号に指定される。博多独楽は工芸品としても価値が高い。

## 博多発の古典芸能を盛り上げたい

—どんな修練を積むのですか？

**珠楽(以下、珠)** 「遊びの中で楽しく覚える」が一門の方針で、私も自然と祖父や母から独楽を教わりました。芸の難易度によって1年に1つぐらいのペースで芸を習得していき、独楽の扱い方を体で覚えたら、独楽の製作や伴奏(打楽器)も学びます。道具づくりから芸、伴奏まで、すべてを身につけるのは、他の古典芸能にはない特徴です。

**寿楽(以下、寿)** 今は1日おきに稽古に通っています。「1日練習しないと自分にわかる、2日しないと師匠にわかる、3日しないとお客様にわかる」と言われます。練習は楽しいし、上手く出来ると嬉しいのです。

—時代の変遷で活動の変化は？

**珠** 料亭や寄席などの宴席に呼ばれることがぐんと減りましたが、海外や県外での公演は増えました。現在の公演数は月に10〜15本ほど。博多独楽は縁起物のお祝い芸ですから、



「大車輪」の芸。扱う独楽のうち最大で力と技量が要る。

不景気や災害など、世の中の雰囲気にも影響を受けやすいですね。

—博多独楽の魅力と見どころは？

**珠** 繊細さや実直さなど日本人らしさが凝縮されているところ。芸とことん向き合っていてこそ表れる味わい深さですね。博多独楽の芸は23種ですが、「見れば見るほど面白い」と言ってくださるリピーターのお客様が多いです。見どころは、主役の「独楽」。大小異なる独楽が回転とバランスでいかに美しく見えるかです。

**寿** 手品などと違って、遠心力とバランスという科学の力で芸ができる場所です。

—伝統を継承するための工夫は？

**珠** 年代によって伝統的なものに対する



扇子の上で独楽を回す「扇子」の芸。他の芸の基本となる。

する受け止め方や楽しみ方は異なるので、その場に合わせた伝え方を変えています。また、私たちのもう一つの活動である「博多金獅子太鼓」や、音楽や演劇など異なる分野と組むなど、新たな表現にも挑戦しています。

**寿** 独楽は楽しいものなので、友だちとも独楽で遊んだりします。

—今後どんな活動をしていきたい？

**珠** より多くの方に見ていただけるように、舞台数を増やしたいです。特に福岡の方たちに「博多独楽って実はすごいんだね」って言っていただけるように(笑)。地元財産になりうるものだから。

**寿** 一人で舞台上に立てるように、もっと練習を頑張ります！



長く張った糸の上で回る独楽を綱渡りさせる「大渡り」の芸。



棒の先で独楽を回す「傘」の芸。最も難易度が高い。



# ART TRIP in KYUSHU

北九州

福岡から日帰りで行けるアートの旅

商業や観光の街として多くの人々が往来する北九州。  
今回は、ユニークなアートプロジェクトに注目します。

## ギャラリー SOAP

アーティストが運営する音楽とアートの発信拠点

1997年にオープンした、カフェ・バー、ライブハウス、サロン、など複合的な機能をもつオルタナティブスペース。オーナーのアーティスト宮川敬一氏を中心に、時代に迎えることなく、国内外でさまざまな領域を横断する独自のプロジェクトを展開しています。アーティストやミュージシャンに限らず、学生や近所の方々など多様な肩書の人たちが集まり、出会い、常に何かが生まれている場です。



北九州ビエンナーレ2013 移民

2015年以降、「北九州ビエンナーレワールドツアー」(ヨーロッパ、シンガポールなどを巡回予定)、「HOTEL ASIA PROJECT」(中国、韓国、タイ、イランなどのアーティストやインスティテュションとの共同プロジェクト)などを予定。最新情報はホームページでご確認ください。

北九州市小倉北区鍛冶屋町1-8-23 TEL 093-551-5522  
JR「小倉」駅より徒歩5分 [http://g-soap.jp/index\\_j.html](http://g-soap.jp/index_j.html)

## 千草ホテル

老舗ホテルで現代アート鑑賞を



村上勝 / ミクストメディア  
「青い羽状」1994年

4/4(土)~6/28(日)  
中庭PROJECT vol.16  
山内光枝展  
11:15~20:00 / 入場無料

1980年代から積極的に美術品の収集・展示を行ってきたことで知られる千草ホテル。現在展開している「中庭PROJECT」では、カフェ・レストランの中庭に九州の若手作家による現代アート作品が展示され、食事やお茶を楽しみながら鑑賞できます。また、館内に設置された、江上計太氏、末藤夕香氏、村上勝氏ら地元作家の作品コレクションも見どころ。配布される「ART MAP」片手に館内のアート散策を楽しんでみては。

北九州市八幡東区西本町1-1-1 TEL 093-671-1131  
JR鹿児島本線「八幡」駅より徒歩10分 <http://www.chigusa.co.jp/>

## 門司港美術工芸研究所

門司港をアートのまちに

門司港の街を見渡す丘の上にある、旧庄司小学校。2002年、「門司港アート村」として生まれ変わった後、9年間の活動を経て、現在は北九州市が運営協力し研究所となっています。「門司港からアートを発信する」をコンセプトに、地元の暮らしとアートをつなぎ、未来のアーティストを育てるため、研究員・研修生たちが作品を制作・発表しています。



レトロな味わいある建物。

1/27(火)~2/21(土)  
「稲葉彬子 彫刻展」  
11:00~18:00 ※日祝休  
会場はギャラリーアルテジオ  
(093-322-5560)

北九州市門司区庄司町19-1 TEL 093-322-1235  
開館時間 / 10:00~17:00 月曜・年末年始は休館  
JR「門司港」駅より徒歩20分 <http://www.mojiko-biken.com>

## 門司港駅ドリームプロジェクト

期間限定の駅前ギャラリー

JR門司港駅の改修期間中、駅を囲む工事壁をギャラリーに見立て、アート作品を展示するプロジェクト。北九州市在住のイラストレーター黒田征太郎氏の作品をはじめ、市民による作品など約150点を展示しています。全体の監修はGLAMOROUS co.,ltdの森田恭通氏が担当。夜にはライトアップされます。関門海峡の眺めや、「レトロな街」の風情、グルメなど、観光地としても人気のある門司港。訪れるならぜひ2018年3月までの展示期間中に。



額のデザインも森田恭通氏によるもの。

門司港ドリームギャラリー実行委員会  
TEL 093-512-9600 <http://www.ko-studio.com/>

KBCシネマ支配人によるシネマ案内

## PICK UP MOVIE



©Exponential (Still Life) Limited 2012

2/14  
公開

2015年1月、シネスイッチ銀座ほか全国順次ロードショー!

### おみおくりの作法

ロンドン市、民政係のジョン・メイ。44歳独身。孤独死した人を弔うのが彼の仕事。几帳面に愛着を持って仕事をこなす日々だったが、人員整理で解雇通告を受けてしまう。最後の案件となったのは、向かいの家に住んでいたピリー・ストーク。彼の人生を紐解くため、イギリス中を旅する事になるのだが…。孤独死に続いて執り行われる参列者のいない葬儀の寂しいこと。タイトルを聞くとイギリス版『おくりびと』と思いがちだが、そうではない。ラストシーンのあまりに驚く結末と、その切なさ、優しさに涙があふれる。監督:ウベルト・パゾリーニ 主演:エディ・マーサン、ジョアンヌ・フロガット

支配人 宮定貴子 / 福岡県出身。有楽興行に勤務後2001年より現職。年間約250本の映画を鑑賞する。  
KBCシネマ <http://www.h6.dion.ne.jp/~kbccine/> TEL 092-751-4268

# ART

あなたの生活に小さなアートを。  
額縁に合わせて切り取って  
身近な場所に飾ってください。



発売中!

## アトリエブラヴォ カレンダー2015

1月15日まで文化芸術情報館アトリエにて販売中!



1冊1,400円  
(見開き時243mm×512mm)

購入方法の詳細はこちらから

<http://atelier.joy-club.jp/?eid=1214464>  
TEL 092-504-9371

## 【未成年の恋する女性】

かねゆき そう  
包行 想



1991年福岡県生まれ。何事にも前向き。建築家を目指すも、もっと自由に自分を表現できるイラストの仕事に興味を持ち専門学校で学ぶ。「人の心が安らぐような作品を描きたい」がモットー。作品に表れる人物や動物の眼はとても大きく、身体は手先足先まで表情を持っている。JOY倶楽部 アトリエブラヴォ所属。  
<http://www.joy-club.jp/atelier-bravo/>

## セリフからはじめる演劇の話

「このままやったら、  
フェリチータのコーヒーも  
飲めんくなるよ。」

第6回九州戯曲賞大賞受賞作『となりの田中さん』の中のセリフです。ある夫婦の言い争いの場面が出てきます。

フェリチータというのは架空のコーヒー店で、夫婦がわざわざお取り寄せして愛飲しているものです。当然、いい値段がするのでしょう。ということは、わりと収入もあるでしょうし、こだわり屋の夫婦なんだろうとも想像できます。そして、そんなコーヒーが飲めなくなるのは大変な生活の危機ということなのでしょう。

「フェリチータのコーヒー」という「小道具」を使うことによって、セリフにたくさんの情報を仕掛けることができます。演劇のセリフではこのような「小道具」の役割が重要になってくるのです。

映像は何かを伝えたい時、そのものを映してしまえば解決します。た

とえば「職場の中でパソコンに向かいながら南の島でのバカンスを思い出している」というシーンを作りたいと思えば、パソコンの画面にぼんやりと南の島を映し、そこからカットを変えて当時の様子を流す——なんて手法を取れば簡単にできるかもしれません。

しかし、演劇ではそうはいかない。舞台はお客さんの目の前にしかありませんから、カットを変えることなんてできない。演劇はセリフという言葉を介してしか表現できないのです。

だからといって「おい、おまえ何をニヤニヤしているんだよ。」「いや、この間の南の島でのバカンスが最高だったなって思い出しているんですよ。」なんて言ってしまうと説明的すぎて、興を削いでしまいます。ですから演劇では小道具を使うのです。「おい、おまえ何をニヤニヤし

ているんだよ。」「いや、この間のグアバジュース最高だったな、つて。」

グアバジュースと聞いて「はい、南の島でのバカンス」とすぐに想像する人はいないかもしれませんが、小道具を使うことで観客の想像力を喚起し、刺激し続けていくことで劇世界を作り上げていきます。だからこそ演劇は面白い。作り手と観客の想像力が一致した時、忘れがたい劇的体験が生まれるからです。演劇のセリフは何気ないものであっても、実は様々な仕掛けがあるのです。

## 幸田 真洋

(こうだ まひろ)

1977年福岡県生まれ。日常に軸足を置いた会話劇で、ねたみ・そねみ・ひがみなどの「目を背けたいが誰もが持ちうるネガティブな感情」をシュールな笑いと胸に突き刺さるセリフで描く。2014年『となりの田中さん』で第6回九州戯曲賞受賞。12月11日(木)～23日(火)、ぼんプラザホールにて『となりの田中さん』をロングラン上演。

九州戯曲賞とは？

九州を拠点とする劇作家による作品を顕彰するため2009年創設。最終審査員は九州にゆかりの深い著名な劇作家が務める。



# ART EVENT CLIPS

## konya-gallery

30" portrait

2月14日(土)・15日(日)

30秒の映像ポートレート。同じ点に存在する人の身体と空間を残す「身体と向き合う人をアーカイブする」プロジェクト。計4回上映(14日(土)14:00/18:00、15日(日)14:00/17:30)。



福岡市中央区大名1-14-28 第一松村ビル  
201+202 12:00~19:00  
TEL:092-984-6292  
前売り1,200円、当日1,500円

## ギャラリー尾形

ムラ・カズユキ展

1月24日(土)~2月1日(日)

アイルランド風景…詩人と妖精の棲む国は人懐っこく、しばしの人の情けと、したたかさを感じさせた旅でした。世界遺産の古墳お椀を被せたような形がユニークで作品にしました。



ニューグレンジ風景

福岡市中央区赤坂2-4-3 11:00~19:00  
TEL:092-713-1835 入場無料

## 三菱地所アルティウム

星空からのメッセージ展 大宮エリー

開催中~1月12日(月・祝)

マルチクリエイター・大宮エリーによる“歩く・感じるプラネタリウム”をテーマとした体験型作品。言葉と造形のインスタレーションが登場します。

※12月31日(水)、1月1日(木・祝)は休館



illustration:Ellie Omiya

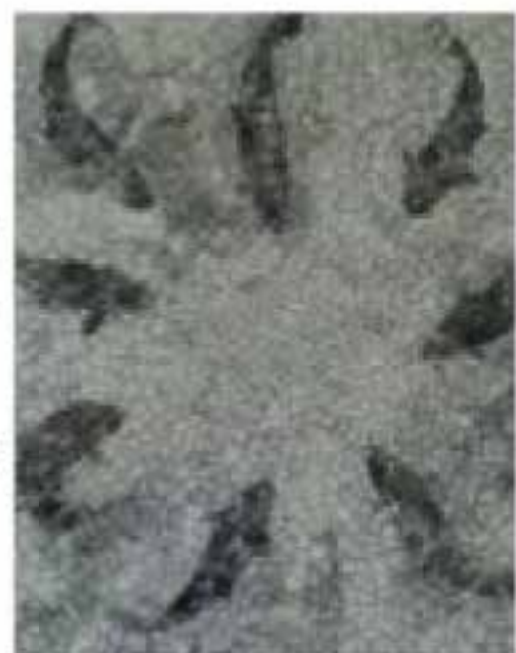
福岡市中央区天神1-7-11 イムズ8F 10:00~20:00  
TEL:092-733-2050  
入場料:一般400円、学生300円

## MIZOE ART GALLERY

片山雅史展

3月14日(土)~3月29日(日)

「植物態」「風」「皮膜」、そして墨で描く「螺旋」と常に新しい表現を追求してきた現代美術家片山の新作展。「螺旋」シリーズの新たな領域に期待。



「円相八鯉図」和紙に墨

福岡市中央区地行浜1-2-5  
10:00~19:00 会期中は無休  
TEL:092-738-5655 入場無料

## FUCA

FUCA EXHIBITION Vol.6「離 Re:」

2月20日(金)~3月8日(日)

1年という期限付きシェアアトリエで制作をすすめる4人のアーティスト。9月に行われた「再構築」から半年、それぞれの「離」が意味するものとは。

開催時間は17:00~22:00を予定。



福岡市中央区平尾3-17-13  
<http://fuca.asia/>

## ギャラリーおいし

古川吉重展 -ドローイング-

2月3日(火)~22日(日)

ニューヨークを拠点に活躍した古川吉重の未発表作品を展示。力強い線を幾度も塗り重ねて、独特の質感を醸し出しています。福岡県立美術館の古川吉重展にあわせて開催。



福岡市中央区天神2-9-212  
11:00~19:00 (最終日~16:00)  
TEL:092-721-6013 入場無料

## 博多座

めんたいぴりり~博多座版~

3月6日(金)~29日(日)

2013年夏に放映され大評判となった話題のテレビドラマが、早くも舞台版となって登場。戦後の動乱期に明太子を作った夫婦の生きざまを描く、笑いあり、涙ありの博多の人情ドラマです。



福岡市博多区下川端町2-1  
TEL:092-263-5555

## アクロス福岡

アクロス・文化学び塾  
「ウルトラ怪獣はアートか? ~芸術家 成田亨の生涯」

1月24日(土) 14:00~15:30

講師に福岡市美術館の山口洋三氏を迎え、初期のウルトラマンシリーズに登場する宇宙人、怪獣などのデザインを手掛けた成田亨の生涯に迫ります。※要事前申込・受講料500円、定員70名、2Fセミナー室2



成田亨  
ウルトラマンイラスト1966年  
青森県立美術館蔵

福岡市中央区天神1-1-1  
TEL:092-725-9100

## 福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

日本映画名作選

1月7日(水)~1月31日(土)

福岡を舞台にした怪獣映画の傑作『ガメラ 大怪獣空中決戦』、故・曾根中生監督の代表作で、70年代の福岡で撮影された『博多っ子純情』(78年)など日本映画の名作・秀作14本を上映。※休館日・休映日除く



『博多っ子純情』

福岡市早良区百道浜3-7-1  
TEL:092-852-0600

### プロフィール

小田律子/主宰。アートを通して物事を深く考える機会や刺激的な体験を提供したいとの思いで様々な企画を行う。アート好きが集うカフェ「屋根裏猫」も併設。

### 店舗情報

アーツスペース猫  
福岡市中央区天神3-4-14  
11:00~20:00 無休  
TEL:092-781-7597  
<http://www.artspacebaku.net/>

猫も、思いもよらぬことへ遭遇する日を夢みながら、もう少し歩んでいこうと思っただ。

偶然に寄った画廊で時には釘付けになるような作品に出会ったことはないだろうか。開放された宝箱のような空間を探し歩いてみてはどうだろうか。鑑賞者も育ってほしいと考えている。せめて記録をする、ひと言葉残すなどのマナーも大切な作家へのエールになるのだ。

1976年、ギャラリーを「アーツスペース」と名付け、実験的な表現の場は望まれるべくしてのスタートだった。当時ではめずらしい喫茶店に併設した独立した空間は、現代美術を試行する若きアーティストたちが、日夜エネルギーを爆発させて大賑わいだった。時間が過ぎて、その頃の熱いものを内に秘めて、生きる事を制作する事をひたすらに続けてきた作家たちとの現在までの関わりが記憶の中でキラキラと輝いている。

し続けるということ

福岡  
ギャラリー  
さんぽ



福岡市博物館 宮野弘樹

忘れちゃいけないダブルメモリアル

今年の福岡は黒田官兵衛で大いに盛り上がりました。奇しくも同じ年、江戸時代の福岡を語る上で忘れてはならない二人の人物が没後三〇〇年と二〇〇年という節目を迎えています。

その二人とは、貝原益軒（一六三〇〜一七一四）と亀井南冥（一七四三〜一八一四）。益軒は『養生訓』や『大和本草』、『黒田家譜』などの著作で知られる福岡藩の儒学者です。そして、もう一人の南冥も儒学者として黒田家に仕えた人物で、志賀島から発見された金印を鑑定してその価値を世間に広めたことで有名です。福岡市博物館常設展示室の案内役を務める「えきけん先生」と「なんめい君」というキャラクターは、この二人をモデルにしています。

没後三〇〇年にあたる益軒については、今年すでに京都大学総合博物館で展覧会が開催され、没後二〇〇年の南冥については、能古博物館や劇団シヨーマンシップによってその足跡をたどるイベントが企画されています。そこで、当館でも二人の業績を中心に江戸時代の福岡で活躍した学者たちを紹介する展覧会を企画しました。三〇年にわたって当館が収集してきた福岡藩の学問に関する著作物や学者の肖像画を一同に展示するまたとない機会となりますので、皆さまぜひご来場ください。

貝原益軒没後300年・亀井南冥没後200年記念 益軒・南冥と筑前の学者たち

12月9日(火)～1月18日(日)



常設展示案内役のえきけん先生(左)となんめい君

福岡市博物館 <http://museum.city.fukuoka.jp/>

「ボルドー展 —美と陶酔の都へ—」

1月31日(金)～3月29日(土)

福岡市とボルドー市は姉妹都市であり、共に海に面した都市として発展してきた歴史を持ちます。本展では、ボルドー美術館、アキテーヌ博物館、ボルドー装飾芸術美術館などが所有するコレクションを中心に約200点を展示し、ボルドー市の魅力を余すことなく伝えます。

締切 1月30日(金)



ウジェーヌ・ドラクロワ(ライオン狩り)  
(c) Musée des Beaux-Arts - Mairie de Bordeaux.  
Cliché L. Gauthier

招待券  
5組  
10名様

九州国立博物館 <http://www.kyuhaku.jp/>

特別展「古代日本と百済の交流 —大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」

1月1日(木・祝)～3月1日(日)

百済の技術者によって水城・大野城・基肆城が築かれて1350年。この節目の年に、百済からおくられた「国宝・七支刀」が九州で初公開。激動の東アジア世界を物語る出土品とともに、百済王ゆかりの品々や仏教美術を展示します。特別展「日本発掘—発掘された日本列島2014—」を同時開催。

締切 1月30日(金)



国宝 七支刀 展示期間: 1月15日～2月15日 4世紀・古墳時代 奈良・石上神宮

招待券  
5組  
10名様

福岡市美術館 <http://www.fukuoka-art-museum.jp/>

成田亨 美術/特撮/怪獣

1月6日(火)～2月11日(水・祝)

成田亨(1929-2002)は、初期ウルトラシリーズのヒーローや怪獣をデザインしたことでその名を知られる。ウルトラ原画のほか、未発表作品やモンスター関係の作品など700点でこの天才芸術家の知られざる半生に迫る。図録決定版「成田亨作品集」(定価5,400円、特典付)も販売。

締切 1月21日(水) ※希望の品を明記してください。

招待券  
5組  
10名様

図録  
1名様



成田亨「カネゴン」1993年

福岡アジア美術館 <http://faam.city.fukuoka.lg.jp/>

北斎展 ～師と弟子たち～

1月2日(金)～2月15日(日)

江戸時代後期に活躍した浮世絵の巨匠で、現代においても圧倒的な評価と人気を博している葛飾北斎。その作品を、貴重な肉筆画から、代表作「富嶽三十六景」をはじめとする「忠臣蔵」「東海道五十三次」といったシリーズもの、役者絵、妖怪絵、また洋風画など一堂に展示します。

締切 1月23日(金)



富嶽三十六景 凱風快晴/葛飾北斎

招待券  
5組  
10名様

【編集後記】

「愛でたし伝統文化」の取材で、目の前で繰り広げられる圧巻の独楽芸に息をのみました。珠楽さん、寿楽さん共に、舞台上に立つなりその場の空気がピリッと引き締まるような凛々しい表情が素敵です。古典芸能の世界にもっと踏み込んでみたくまりました。(内田)



読者プレゼント!

下記を明記のうえ、郵便ハガキ、FAX、またはメールにてご応募ください。

- ① ご希望のプレゼントの美術館・博物館名
- ② 住所・氏名・年齢・電話番号
- ③ 「wa」を手にした場所
- ④ よかったページ
- ⑤ 興味がなかったページ
- ⑥ 本誌以外で、アートに関する情報をどこから得ていますか
- ⑦ 本誌や財団に期待すること、ご意見など

福岡市文化芸術振興財団 機関誌「wa」編集部  
応募先 〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3-10福岡県消防会館6F  
Fax:092-263-6259 Email:pr-co@ffac.or.jp

# FFAC INFORMATION

各イベント情報の問い合わせ先

TEL: 092-263-6265 FAX: 092-263-6259 E-mail: pr-co@ffac.or.jp

最新情報は財団ホームページへ <http://www.ffac.or.jp>

## セミナー

### 【アトリエ・ゼミ vol.2】 ふくおか芸術家生活のすすめ

文化芸術の現場でプロを目指す人やステップアップしたい人が、福岡でよりよい表現活動をするために知識やスキルを身につける活動者支援プログラム。今年も、昨年好評を得た「お金のはなし」をさらに掘り下げ、「ファンディング」についてじっくり学びます。



昨年開催の様子

日時: 1月31日(土) 10:00~17:00  
会場: 福岡市文化芸術振興財団 会議室  
講師: 伊藤美歩(有限会社アーツブリッジ代表)、  
宮田智史(NPO法人ドネルモ事務局長)  
参加費: 2,000円  
対象: アーティスト、アートマネージャー、表現活動のための資金調達に関心のある方(経験不問)

## 演劇

### 「創作コンペティション 一つの戯曲からの創作をとおして語ろう」 vol.5 プレゼン審査

FFACでは、演出家の育成と発掘を目的としたコンペティションを平成19年から行っています。書類審査に合格した7名が、審査員に課題戯曲「葵上」の上演プランをプレゼンテーションする「プレゼン審査」。一般観客の前での公開プレゼンです。創作について語り合う場に立ち会いませんか?



前回開催の様子

日程: 12月27日(土) 13:00  
会場: ゆめアール大橋(福岡市南区大橋1-3-25)  
料金: 無料 ※要事前申し込み(定員30名)

## ダンス

### 福岡ダンスフリンジフェスティバル ～ダンスの発火点～vol.8

国内外の新進気鋭の振付家・ダンサーが福岡に集結し、今まさに沸騰する旬のダンスをお届けします!公演の他にも、ダンスワークショップやトークイベントも開催!



公式HP <http://d-codex.asia/fdff/>

<参加アーティスト>

Choi Myung Hyun(ソウル) / Jun Heung Ryeol(ソウル) / Ong Yong Lock(香港) / Metka Kladnik(スロヴェニア) / 秋津さやか(アムステルダム) / 飯田あや(奈良) / 井野laboratory(福岡) / 河原田隆徳(イスラエル・熊本) / 木原浩太(東京) / 四戸賢治(東京) / 素我螺部(京都・佐賀) / 立石裕美(東京) / CAKRA DANCE COMPANY(名古屋) / ちょこがる(福岡) / 寺杉彩(東京) / 苫野美亜(横浜) / 野村香子(京都・福岡) / 花本有加(京都) / 太めパフォーマンス(福岡) / 真吉(福岡) / 村田正樹(東京) / 望月崇博(東京) / んまつーポス(宮崎)ほか<50音順>

<Main Program>

日時: 2月7日(土) A 15:30 / B 19:00  
8日(日) C 15:00 / D 18:00

会場: ぽんプラザホール

料金: 1回券3,000円・学生2,000円(当日3,500円)

1日券 5,000円(A・Bセット、C・Dセットのどちらか)

2日券 8,500円(A・B・C・Dすべて鑑賞できます)

※1日券、2日券は数量限定、前売りのみ。

※学生は前売りのみ。公式HPでのみ予約可能。

チケット取扱: 公式HP、ローソンチケット(Lコード81911)、アトリエ

<Special Night Program>

日時: 2月7日(土) 21:30

会場: 紺屋2023・konya-gallery

料金: 2,500円(当日3,000円)

チケット取扱: 公式HPにてご予約ください。

★チケット発売日: 12月17日(水)

<ワークショップ>

2月2日(月)~6日(金)、世界的ダンサーによるスペシャルワークショップを開催! 詳細、申し込み方法は公式HPをご覧ください。

お問い合わせ:

福岡ダンスフリンジフェスティバル事務局 / NPO法人コデックス

TEL: 080-5259-2577 E-mail: fdffinfo@gmail.com

## ワークショップ

【アトリエ・アトリエ】  
春のアートワークショップ!

みんなでアーティストになっちゃおう!大人と子どもの想像力と表現力を、楽しく引き出す体験講座が大集合!コーディネートは、福岡を拠点に活動するアーティスト。どうぞお気軽にご参加ください!



前回開催の様子

日時: 3月上旬  
会場: 文化芸術情報館アトリエ  
(福岡アジア美術館7F)周辺  
詳細は決まり次第、WEBアトリエでお知らせします。  
<http://artlier.jp/>

## お知らせ

財団ホームページ&WEBアトリエを  
リニューアルしました!

財団ホームページとWEBアトリエが今まで以上に見やすく、便利なウェブサイト生まれ変わりました。WEBアトリエでは、福岡・九州の最新のアートイベント情報が盛りだくさん! ご自身が告知したいイベント情報を投稿することもできます。ぜひご利用ください。

財団ホームページ  
<http://www.ffac.or.jp/>WEBアトリエ  
<http://artlier.jp/>

## PICK UP GOODS

## ミュージアムグッズセール開催!

財団が製作・販売している美術館、博物館などのミュージアムグッズを大幅プライスダウン。博物館の絵はがきが1枚10円!  
その他今売れ筋のグッズや図録などもあります。数量限定のものもありますのでお早めに。



日時: 2月7日(土)~11日(水・祝) 10:00~19:30  
会場: 文化芸術情報館アトリエ(福岡アジア美術館7F)

## ダンス

イムズパフォーミングアーツシリーズ2015  
「踊りに行くぜ!!」Ⅱ(セカンド)vol.5

全国各地のダンス・イン・レジデンスで制作された作品が巡回するA/ダンスプロダクション、作家が選んだ地元出演者と作品を作るB/リージョナルダンス、福岡の地元作家が作品

昨年度「踊りに行くぜ!!」Ⅱvol.4より  
撮影: 泉山朗士

品を制作・発表するC/地元作品。これら3つのプログラム、全4作品を一挙上演。ダンス界注目の「踊りに行くぜ!!」Ⅱvol.5が今年も福岡にて上演されます。

日時: 2月28日(土) 19:00  
会場: イムズホール(イムズ9F)  
料金: 一般2,500円、学生1,500円(当日は各500円増し)  
上演作品:  
A / 「#1 天使ソナタ」(作・演出: 川口智子)、  
「To day」(作・演出・構成: 桑折現)  
B / 「底の庭の隣で待つ」(演出・構成・振付: 田中美沙子)  
C / 「膜」(振付・演出: 乗松薫)

## 音楽

## アトリエ ラウンジ・コンサート vol.8

元九州交響楽団常任指揮者で、現在はサンタバーバラ室内管弦楽団で音楽監督兼常任指揮者として活躍する大山平一郎氏がコーディネートする室内楽のコンサートです。本格的クラシック音楽を、間近で、大山氏による解説とともに楽しみください。

日時: 3月10日(火) 18:45~  
会場: 福岡アジア美術館 彫刻ラウンジ  
(博多区下川端町3-1 博多リバレイン7階)  
料金: 無料(申込不要)  
出演: 窪田脩子(ピアノ)、倉田輝美(ヴァイオリン)、  
大山平一郎(ヴィオラ)、原田哲男(チェロ)  
曲目: ドボルジャーク/ピアノ四重奏第2番変ホ長調  
作品87ほか  
※出演者は、予告なく変更する場合がございます。

## 寄附金募集

## 文化芸術活動を支えていただくために

公益財団法人福岡市文化芸術振興財団では、心豊かな市民生活の実現と薫り高い文化芸術の創造・発展に寄与することを目的に、各種事業を行っており、さらなる充実を図るために皆さまからのご寄附を募集しています。

募集期間: 常時  
寄附金の額: 法人・個人、いずれも金額は問いません。  
税制上の優遇: 本財団に対する寄附金には、税制上の優遇措置が適用されます。詳細は所轄の税務署又は税理士にお尋ね下さい。  
寄附金の受付・お問い合わせ: 総務課  
TEL: 092-263-6264 FAX: 092-263-6259

平成27年度 文化芸術サポーターを募集中!

2015  
1/20<sup>(火)</sup>  
より  
入会予約  
受付開始

# 賛助会「わの会」



福岡市美術館



福岡アジア美術館  
リバインセンタービル7・8F



福岡市博物館

## 財団事業

福岡市文化芸術振興財団の  
公演等は特別料金(一部対象外有)

## 美術館・博物館

- 福岡市美術館
  - 福岡アジア美術館
  - 福岡市博物館
  - 九州産業大学美術館
- の常設展(コレクション展)が  
何度でも無料  
特別展は団体料金(一部対象外有)



入会すると特典が  
いっぱい!!



## 提携施設

割引料金で入れる美術館・博物館  
などの施設が約50カ所

## 情報

年4回郵送で機関誌や冊子など、  
楽しい文化芸術情報を送付

- 福岡市文化芸術振興財団 [wa]
  - 福岡市美術館 [エスプラナード]
  - 福岡アジア美術館 [あじびニュース]
  - 福岡市博物館 [ファカタ]
- その他各種イベントのご案内

## 映画

- 福岡市総合図書館 映像ホール [シネラ]
  - 中洲大洋
  - KBCシネマ
- で映画鑑賞が割引(一部対象外有)

## プレゼント

各種展覧会やイベントにご招待  
(先着/抽選)



illustration by Yukimi Manno

## 種類/有効期間/会費

### 個人会員

【全期】 2,000円  
平成27年4月1日 ~ 平成28年3月31日

【半期】 1,500円  
平成27年10月1日 ~ 平成28年3月31日

### 法人会員

【全期】 10,000円  
平成27年4月1日 ~ 平成28年3月31日

## 入会受付場所

- 文化芸術情報館アトリエ (福岡アジア美術館7階)
- 福岡市美術館ブックショップ
- 福岡市博物館ミュージアムショップ

## 問い合わせ

公益財団法人  
福岡市文化芸術振興財団 総務課  
Tel: 092-263-6257 Fax: 092-263-6259  
Email wa@ffac.or.jp